MRD（Measurable Residual Disease）解析

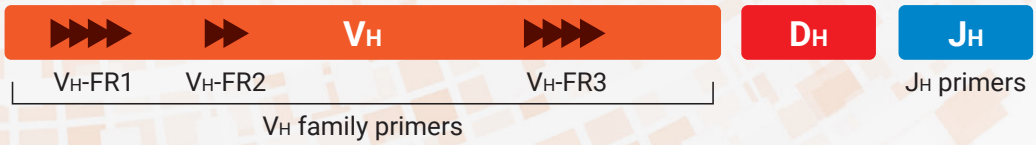
背景

微小残存病変（MRD）は血液腫瘍において強力な予後因子であり、治療法の適切な選択や予後予測において重要な役割を果たします。MRD測定にはフローサイトメトリーを利用した方法や、腫瘍特異的なプライマーを用いた定量PCR法がこれまで利用されてきました。しかし、フローサイトメトリーを利用した手法では判定に主観性が伴う場合があり、また定量PCRでは症例特異的なプライマー設計が困難なケースも存在します。近年では、次世代シーケンサー（NGS）を用いた解析手法も開発されており、高感度かつ客観性・再現性に優れたMRD解析が可能となっています。さらに、ハイスループット化にも対応可能であることが期待されています。

LymphoTrack®

LymphoTrack®シリーズは、IgH、IgK、TRG、TRBなどの免疫受容体遺伝子再構成領域を解析することで、リンパ性造血器腫瘍におけるMRD（Minimal Residual Disease：微小残存病変）の検出・モニタリングを可能としております。

また、低濃度コントロールや内部コントロールを用いた精度管理にも対応しております。



The LymphoTrack® MRD Bundled Solution

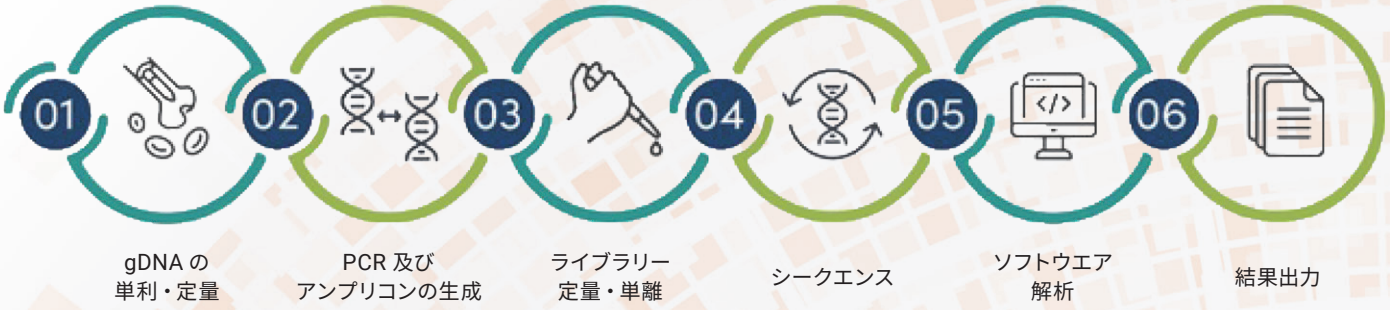
NGS Powered Assays, Controls & Software for Longitudinal MRD Testing

LeukoStrat®

FLT3-ITD および NPM1 微小残存病変（MRD）の検出

急性骨髄性白血病（AML）において、FLT3-ITDやNPM1挿入変異などの遺伝的異常の組み合わせは、病態や予後に関する重要な情報を提供します。寛解期AML患者を対象とした同種造血幹細胞移植前の評価では、FLT3-ITDおよびNPM1変異の変異対立遺伝子頻度が0.01%以上である患者において、これらの変異を認めない患者と比較して、再発および死亡リスクの上昇が報告されています。Invivoscribe社のLeukoStrat®キットおよび解析ソフトウェアは、円滑なワークフローによるNGSディープシークエンス解析を通じて、これらの遺伝子変異の高感度な検出を可能とし、病態評価や再発リスク判定を支援します。

Figure 1: Workflow Summary



検体条件

血清または血漿：2mL 以上

調整・送付方法はお問い合わせください。

納品物

- **作業報告書**
- **MRD Report**

GxD 株式会社

納品物やレポート、技術的なお問い合わせ support@gxd.co.jp
製品・サービスへのお問い合わせ info@gxd.co.jp

〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6 丁目 6-2 三井リンクラボ柏の葉 1 403 号室
04-7131-7111（代表）
https://www.gxd.co.jp/

10x GENOMICS Certified Service Provider

GxD Genome x Data

Cat.#：2025-005